

中国語における 日本語の漢語をめぐる

呂 明 臣

1. はじめに

現代中国語には、日本語からの漢語が多数存在する。これらの語彙は、中国語における外来語の一種と認めるのが普通である。しかし、このような「外来語」は、普通の外来語（例えば、英語やフランス語からの外来語）とは、いささか違いが見られる。中国語では、日本語の外来語、英語の外来語、フランス語の外来語などが、いずれも漢字表記されているのであるが、英語やフランス語の外来語を表す漢字は、「読み（音）」を示すために用いられているにすぎず、一般的に言えば、その漢字の「意味」は、その外来語の表す意味とは無関係である。例えば、「巧克力」の三つの漢字は、それぞれが英語の「chocolate」の意味とは関係がなく、三つの漢字で英語（chocolate）の発音を表すにすぎないのである。これに対して、日本語の外来語の漢字は、「読み（音）」だけではなく、「意味」とも関係している（もちろん、その中には「寿司」、「刺身」、「スナック」）のような単語もあるが、本稿では、これらについては扱わないことにする）。中国語における日本語からの外来語は、言うまでもなく日本語からそのままもたらされたものである。これは、一方では、中国語の運用に利便さをもたらすと同時に、他方では、その使用に（とりわけ、その外来語についての認識に）厄介な問題をもたらしているのも事実である。本稿では、このような問題について、様々な観点から考察を加えることにした

い。

2. これまでの研究成果と課題

中国語における日本語からの外来語は、他の外来語とは異なっているので、研究者は以前からこの問題に関心を寄せてきた。これまでに、さまざまな論考が提示されているのであるが、ここでは、その主な研究を概観することにして。

2.1 中国語における日本語の「漢語」の位置

中国語が、日本語から語彙を借用するようになったのは、少なくとも、19世紀末、20世紀初である⁽¹⁾。しかし、日本語から借用した漢語は、漢字で表記されているので、長い間、外来語としては取り扱われて来なかった。史有為の『漢語外来詞』によると、20世紀の1950年代になって、ようやく外来語と認められるようになったのであるが、やはり他の外来語とは相違があると述べている⁽²⁾。このため、現代中国語の教科書では、外来語について述べる場合、「これは日本語からの外来語である」という指摘が必ずなされることになる（英語やフランス語からの外来語には、そのような特別の指摘がなされることはない）。このようなことから、日本語からの漢語が、特殊な位置に置かれているとすることができるのである。孫維張は、このような漢語を「回流詞」と呼び⁽³⁾、他の外来語と区別している。

2.2 中国語における日本語の「漢語」の識別

中国語に取り入れられている日本語の語彙は、主に「和製漢語」であるが、それらを中国語における本来の語彙（漢語）と区別することは難しい。日本語からの漢語を外来語の一種と認めても、どの漢語が日本語からの外来語であり、どの漢語がそうではない、という判断を下すのはなかなか

か容易ではないのである。そのため、この点に注目する研究者は少なくない（例えば、史有為『漢語外来詞』⁽⁴⁾、孫維張『漢語社会語言学』⁽⁵⁾、沈国威『近代日中語彙交流史』⁽⁶⁾など）。これらの研究は、単語の語源（来源）を探ることによって、その単語が日本語からの外来語であるか否かを認定することにあった。

2.3 中国語における日本語の「漢語」のリスト

日本語からの漢語を、外来語の一種と見なすとすれば、それらを外来語辞書に収めるべきであろう。また、少なくとも、普通の辞書においても、その語源についての説明が必要なはずである。そこで、これまでに、日本語からの「外来語詞表（漢語リスト）」が作成されている。

沈国威の『近代日中語彙交流史』には、5種類の単語リストが収められている。また、岡島空山は、『現代漢語外来詞研究』（高名凱，劉正琰：文字改革出版社1958），『漢語外来語辞典』（劉正琰，高名凱，麦永乾，史有為：上海辞書出版社1984）によって、「中国に渡った日本語」という単語リストを示している⁽⁸⁾。

このような漢語リストは、中国語における日本語からの漢語を研究するための重要なデータとなっている。

2.4 中国語における日本語の漢語の分類

中国語における日本語からの漢語について、王立達の『現代漢語中從日本語借来的詞彙』と史有為の『漢語外来詞』の分類を以下に掲げることにする。

王立達は、現代中国語における日本語からの外来語を9種類に分類している⁽⁹⁾。

- (1) 音訳の漢字詞。例：瓦斯。
- (2) 意訳の漢字詞。例：手續（手続き），入口。
- (3) 新しい意味が取り入れられた古代漢語詞。例：經濟，革命。

- (4) 近代日本で新しく作られた漢字詞。例：絶対，哲学。
- (5) 日本語から輸入され，中国語で意味が変わった漢字詞。例：労働者。
- (6) 日本語（平仮名の詞）に対応する機能詞。例：对于，基于。
- (7) 日本で作られた漢字詞。例：腺，膾，呎。
- (8) すでに使わない漢字詞。例：労働組合，労農政府。
- (9) 協和語の漢字詞。例：町，番地，満員。

この王立達分類は，一貫した基準によって行われていないことは明らかであり，史有為は「妥当性を欠く」と指摘している⁽¹⁰⁾。

一方，史有為は，中国語における日本語からの漢語（「外来詞」）を，次のように分類している⁽¹¹⁾。

- (1) 漢字の意味を使用した漢字詞。これは数が最も多く，日本語からの外来語の中核となっている。これを日本語から見てみると，3種類11類に分類することができる。

A. 西語の意識。

第1種，これは，もともと古代中国語であって，西語を意識するために，日本語から借用したもので，中国語の転義あるいは派生義であると認められるもの。例：経済，革命，教授など。

第2種，中国語の形態素（即ち，漢字）をもとに作られたもので，西語を意識するために使われる日本製の外来語を指す。例：幹部，美術など。

第3種，日本製の漢字で作られた詞。例：腺，膾など。

第4種，日本語の形態素で構成されているが，漢字で表記される西語の意識詞。例：組合，借方など。

第5種，音読と訓読が混在する西語の意識漢字詞。例：身分など。

- B. 文字は，意識であるのに対し，読みは，音訳であるもの。西語の意識であるが，文字は漢字の意味を利用して，中国語の形を持ち続けているもの。

第6種、古代中国語詞形式の、訓読み式の音訳詞。例：麦酒など。

第7種、音訳兼意識の音読み式の漢字詞。例：倶楽部など。

第8種、漢字の本来の意味から、新しい意味を派生させ、漢字の造字法によって、偏旁を付加した和製漢字詞。例：吋、呎など。

C. 日本語において、漢字によって物事を認識し、それを反映する詞。

第9種、音読漢字で構成された和製漢語。例：花道、俳句など。

第10種、古代中国語を借用して表現するものを指す。例：柔道、浪人など。

第11種、訓読漢字で構成されたものを指す。例：場合、立場など。

(2) 漢字の意味を使わず、形だけを借りた漢字詞。これは日本に本来あるもの、あるいは、西語を音訳し、かつ音読漢字で書かれている詞。例：寿司、瓦斯など。

(3) 日本語を中国語に音訳する詞。中国語が日本語の音に基づいて、漢字（全部あるいは一部分）で音訳する詞。例：スナック（スナック）、卡拉OK（カラオケ）、扒金库（パチンコ）など。

2.5 残された課題

上述のように、中国語における日本語からの漢語について、種々の観点からの研究が行われ、有益な資料（リスト）も提示されてはいるが、いまだ不十分な点もあり、未解決の問題も多く残されている。以下では、その性質と中国語での用法という二つ問題を取り上げて検討してみたい。

3. 中国語における日本語からの漢語の性質

既に見たように、中国語において、日本語から漢語が輸入されたのは19世紀末、20世紀初であるが、それから50年経って、ようやく、外来語と認められるようになった。その理由は、「漢字」表記にあると考えられる。世界の文字体系の中で、漢字は、表意文字として際立っている。一つ

の漢字は、音（音声）と字形を持ち、意味も持つ。だからこそ、漢字は中国語だけではなく、ほかの言語（例えば、日本語や朝鮮語）も表すことができるのである。この点は、言語の借用ということにおいても大いに影響している。英語のような表音文字で表される言語は、ほかの言語から語を借用する場合、いわば「音訳」でしか表せないのが普通である。それに対して、漢字では、音訳のほかに、漢字の持つ意味を生かした借用が行われることとなったのである。

当初、日本では、日本語を表記するために中国から漢字を借り、中国語の語をそのまま借用しながら、日本語を表した。すなわち、漢字のいわば「意味」だけを借用したのである。例えば、「走る」という語において、漢字を借りて表したのは「意味」だけであり、音（字音）は関係しない。古来より、中国語は、ほとんどが単音節語であり、一つの漢字は、一つの形態素といってよい。従って、日本語が中国語から借用したのは、〈文字〉いうよりも、むしろ、〈中国語の形態素〉であるといった方が適当である。日本語に借用された「音」「義」は、一つの形態素の二面であるに過ぎないといえるであろう。このような点は、中国語が英語から、あるいは日本語が英語から、単語を借用する場合と大きく異なっている点である。中国語と日本語には、英語（あるいはフランス語、ドイツ語など）から借用した形態素もあるが、それは語彙全体から見ればごく少数である。

このような見地に立つと、日本語では、漢字で構成された語を「漢語」と呼ぶのが相応しいことが分かる。「和語」に対して、「漢語」は、漢字（文字）を借用したというより、むしろ〈中国語の形態素〉を借用したといった方が適切なのである。とすれば、中国語における日本語からの漢語と中国語の固有の語との違いは、いわば作り手が異なっているに過ぎないと言えるであろう。中国語の形態素で作る語は、日本人がいわゆる「外来語」と認めなかったばかりではなく、中国人にも「外来語」とは認められなかったのである。中国語の話者にとって、「电视（テレビ）」と「哲学」とでは、語感上の違いはなく、両方とも中国語と意識している。しかし、

「电视」と「沙发（ソファー）」は、それとは異なり、「沙发」は中国語とは認めないのが普通である。「哲学」は日本語からの漢語であっても、〈中国語の形態素〉で構成されているからであり、「沙发」はそうではないからである。このように、中国語では、中国語の形態素によって構成されている日本からの漢語は、英語からの外来語などとは全く異なっているのである。英語のような言語からの外来語は、形態素や単語など、すべてが異言語の風格（スタイル）を備えている。それに対し、日本語からの漢語は、ほとんどが中国語の風格（スタイル）を持っている。

日本語は中国語から漢字を取り入れると同時に、中国語の形態素を取り入れた。そして、その形態素を利用して、新しい単語を作り出したのである。その後、中国語は、日本語から、中国語の形態素によって作り出された新しい単語（漢語）を取り入れた。従って、英語からの単語に比べて、このような単語は外来語とは言いにくい。一般的に言えば、いわゆる外来語は、他の民族の言語から借用した語と認められ、そこにその言語の形態素や形態素で構成された単語が含まれているはずだからである。そのような点から見ると、中国語における日本語からの漢語は、外来語であると見做されなかったわけで、少なくとも、本来の外来語ではないと思われてきたのである。言語そのものから見れば、日本語からの漢語は、事実上、中国語と見做してもよいということになる。とするならば、漢字あるいは漢字によって表される形態素は、中国語だけのものではなく、いわば世界の共有財産でもあるということになるであろう。かりに、イギリス人が日本語の形態素で新しい日本語の単語を作り、それが日本語に借用されて使われるとしたら、あるいは中国人が英語の形態素で新しい英語の単語を作って、それが英語に借用されて使われるとしたら、それぞれ、外来語であると認められるであろうか。確かに、ある言語はある民族によって作られたと言えるのであるが、ある民族の範囲を超えて、他の民族で使われるようになり、さらに、他の民族によって続けて創造されるという可能性があるからである。英語などはまさにその典型的な例といえるであろう。

4. 中国語における日本語からの漢語の用法について

これまでの研究では、中国語における日本語からの漢語について、その性質や中国語との識別などが主なテーマとされてきた。従って、漢語の使用に関わる問題については、あまり注目されてこなかった。ところが、実際には中国語における日本語からの漢語には、もともとの日本語とは用法（使い方）の異なっているものが多数存在しているのである。

4.1 文法機能における相違

一般的に、中国語は形態変化のない言語であると認められているので、英語や日本語などのように、単語の形態（語形変化）によって、品詞（文法機能に基づいた語の分類）に分けることは困難である。従って、この点だけでは、中国語の品詞を識別することはできない。文中で果たす単語の役割に応じて、その単語の品詞を分類するという方法が必要になってくる。このような方法は、中国では「詞の文法機能の基準」と呼ばれている。もちろん、中国語にも、英語や日本語のように、名詞、動詞、形容詞の区別はあるが、単語の外形によっては見分けることができないのである。

日本語の漢語は、中国語に借用されたとき、「漢字」以外の名詞や動詞などの特別な形（ただし、このような形があった場合）は捨象される。例えば、「反対」という語は、日本語では、名詞、サ変動詞であるが、中国語では動詞だけである⁽¹²⁾。そのため、「反対」は、動詞として中国語に取り入れられときに、サ変動詞の印（マーカー）としての「する」は捨てられてしまう。一見すると、中国語における日本語からの漢語は、日本語での漢語と同じではあるが、実際には、文法機能の点では、さまざまな違いがあることになる。この点について、用例に基づいてさらに詳しく検討してみよう。

4. 1. 1 文法機能の拡大

日本語の漢語よりも、中国語の漢語の方が文法機能を拡大している例。

(1)「保険⁽¹³⁾」：日本語では名詞。

- 保険に入る
- 保険を解除する
- 火災保険

中国語では、名詞のほかに、〈形容詞〉の用法が加わっている⁽¹⁴⁾。

△这样做可不保险。(そんなやり方ではちょっと危なっかしい。)

△你还是带上雨衣吧，保险点儿。(やはりレインコートを持っていったほうがいい，安心だから。)

△明天他保险能来。(あの人は明日きつと来ると思う。)

4. 1. 2 文法機能の縮小

日本語の漢語よりも、中国語の漢語の方が文法機能を縮小している例。

(1)「故障」：日本語では名詞，サ変動詞。

- A 選手は肩の故障で欠場した。
- 機械が故障した。

日本語と相違して、中国語での「故障」は名詞だけである。

△电车发生了故障。(電車が故障した。)

△发动机出了故障。(発動機は故障を起こした。)

(2)「交換」：日本語では名詞，サ変動詞。

- 名刺の交換
- 意見を交換する。

中国語においては、動詞として使われる。

△交換相片。(写真を交換する。)

(3)「反对」：日本語では名詞，サ変動詞。

- 議案は1票の反对もなく通過する。
- シャツを前と後と反对に着る。
- 侵略戦争に反对する。

中国語においては、動詞として使われる。

△反对贪污浪费。(汚職や浪費に反対する。)

4.1.3 文法機能の変化

広義では、文法機能の拡大や縮小は、いずれも文法機能の変化である。しかし、ここでいう「文法機能の変化」とは、いわば全体的な「変化」である。すなわち、ある単語の文法機能自体が A から B に変化するということである。例えば、

(1)「勤務」：この単語は、日本語では、独立の単語として使われる。しかし、中国語に借用された際に、その文法機能が変化し、独立の単語としては使用されなくなった。

○(日)5時まで勤務を続ける。

○(日)1日8時間勤務する。

△(中)做人民的勤务员。(人民の公僕となる。)

中国語では、「勤務」は、独立の単語ではなく、「勤务员」という単語の一部をなす。

(2)「前衛」：日本語では名詞。

○前衛としての役割を果たす。

中国語では、スポーツの専門用語のほかに、〈形容詞〉としても使われている。

△其他的音乐很前卫。(彼の音楽はとても前衛的だ。)

(3)「直接」：日本語では、名詞、副詞、サ変動詞。

○直接の原因

○直接(に)当たってみる。

○電源に直接したコード

日本語の「直接」とは相違して、中国語の「直接」は〈形容詞〉である。

△以后你有是可以直接去找他。(これから用事のあるときは直接彼にあったらいい。)

△这两件事没有直接关系。(二つの事件には直接の関係がない。)

4.2 意味の相違

既に述べたように、中国語における日本語からの漢語は、日本語の漢語に比べて、文法機能の点では、その分化は少ない。文法機能の分化は、その意味と関わりがあり、意味の違いが、文法機能の分化を引き起こしたとすることができる。意味の違いに関しての研究は、盛んに行われてきたが、一般的に、この種の研究は、中日同型語（同じ漢字によって構成される単語）の範囲内で検討されてきている。ここでは、それらを、新たな観点から、いくつかの類型にまとめて検討を加えてみよう。

4.2.1 意味の範囲の拡大

中国語に借用された際に、日本語の漢語よりも意味がより広くなったものの。

(1)「動態」：日本語では「静態」の反対語。

○人口の動態調査を行う。

中国語の「动态」には、上の意味のほかに、「動き」「状況」の意味が加わっている。

△科技新动态。(科学技術の新しい動き。)

△从这些图表里也可以看出建设的动态。(これらの図表から見ても建設の動きを知ることができる。)

(2)「対象」：日本語の意味は「目標」「目当て」という意味。

○認識の対象

○これは高校生を対象とした辞書です。

中国語には、それに加えて、「恋愛の相手」という意味が加わる。

△他最近找到了合适的对象。(彼は最近ちょうどいい結婚する相手を見つけた。)

4.2.2 意味の範囲の縮小

中国語に借用された際に、日本語の漢語よりも意味が縮小したもの。

(1)「承認」：日本語には、次の三つの意味がある。

a.「批准」という意味：

○正式に承認する。(正式批准。)

b.「同意」という意味：

○これは知事の承認が必要だ。(这须得到知事的同意。)

c.「認める」という意味：

○事実を承認する。(承认事实。)

日本語と異なるのは、中国語の「承认」が「c」の意味しか持っていないということである。

△他承认了一切罪行。(彼は犯罪のすべてを承認した。)

(2)「表象」：日本語には、次の二つの意味がある。

a.〈心理学，哲学〉の「表象」という意味：

○表象主義 (表象主義)

b.「象徴」という意味：

○鳩は平和を表象する。(鸽子象征着和平。)

中国語には「a」の意味しかない。

(3)「会計」日本語には、次の五つの意味がある。

a. 会計となる人と会計の事という意味：

○会計を務める。(当会计。)

○会計学 (会计学)

b.「勘定」という意味：

○会計をしてください。(请给结账。)

c.「帳簿」という意味：

○会計が合わない。(账目不符。)

d.「会計課」,「納金所」,「帳場」という意味：

○会計に行って給料を受け取る。(到会计科去领工资。)

e.「個人の予算」という意味：

○(それは)私には会計が許さない。(我花不起那笔钱。)

「会計」という単語は、中国語では「a」の意味しかない。

4.2.3 指示する意味の変化

中国語に借用された際に、もとの日本語の漢語に比べて、その指し示す意味が変化したもの。

(1)「新聞」：日本語では「日刊紙」や「朝刊紙」「夕刊紙」を指す。

○朝刊新聞（晨报）

○日刊新聞（晚报）

○新聞を配達する。（送报纸。）

これに対して、中国語では上のような意味がなく、「ニュース」と「新しい出来事」という意味である⁽¹⁵⁾。

△新闻广播。（ニュース放送。）

△有什么新闻吗？（何か新しい出来事があるか。）

(2)「検討」：日本語では「討論」や「研究」を指す。

○委員会で予算案を検討する。（在委员会上讨论预算方案。）

○さらに検討を要する。（需要进一步加以探讨。）

この漢語は、中国語では「反省」「自己批判」ということを指す。

△他对自己的错误进行了检讨。（彼は自分の間違いについて自己批判をした。）

4.3 語感や使用場面での相違

中国語に借用されてから、意味はほとんど変化していないが、語感や使用場面など、日本語の本来のものとは異なるもの。

(1)「特務」：日本語の意味は「特別任務」である。

○特務を帯びる。

○特務機関

中国語では、日本語のように使うのは軍隊だけである。

△特务连（特務中隊）

それ以外の場合では、「特務」が「スパイ」の意味として使われるため、

人々に悪い感を与える。

△战争的时候，那家伙当过特务。(戦争時，こいつはスパイとなった。)

(2)「舶来品」：この漢語は中国語でも「輸入品」という意味であるが、マイナスイメージを持っている。

△他没有新的研究，只好兜售舶来品。(彼は新しい研究がないので、舶来品を販売するほかない。)

もし、そのような語感（ニュアンス）を表現したくなければ、別の言葉を使う。

△我买了进口货。(私は輸入品を買った。)

(3)「番号」：この漢語が日本語と異なるのは軍隊で使用される点である。それ以外ではほとんど使われない。

△部队番号 (部隊の番号)

△房间的号码是2楼15号。(部屋の番号は2階の15号です。)

※房间的番号是2楼15号。

△拨电话号码。(電話の番号を回す。)

※拨电话号码。

(4)「介入」：中国語では、「介入」は書き言葉であり、話し言葉としては、あまり使わないのが普通である。

△介入纷争。(紛争に介入する。)<書き言葉>

△别管我们的事！(われわれのことに介入するな。)<話し言葉>

(5)「写真」：中国語での「写真」は、日本語と同じ意味を持っている。しかし、一般的には<俳優、スポーツの選手>、とりわけ<女優、女性選手>には使うが、普通の人には使わない。

(6)「放送」：日本語の「放送」にあたる中国語には別の単語（「广播」，「播放」など）がある。最近では、日本語の「放送」も使われているに過ぎない。

△周日大放送 (中国吉林省テレビ放送局の番組)

5. おわりに

中国語における日本語からの漢語は、言語の交流現象として興味深いものがあるので、多くの研究者が関心を寄せ、考察を加えてきた。「漢語」の研究は、語源や意味ばかりではなく、対照言語学的にも、さらに広く人類言語学的にも興味深い問題を提示しているのである。本稿をきっかけとして、「漢語」についてさらに考察・検討を加えて行きたいと思っている。

注

- (1) 沈国威 (1994)『近代日中語彙交流史』(笠間書院 p. 3)
- (2) 史有為 (2000)『漢語外来詞』(商務印書館, 北京 p. 166)
- (3) 孫維張 (1991)『漢語社会語言学』(貴州教育出版社)
- (4) 注(2)に同じ。
- (5)『詞庫建設通訊』(総 17 期, 香港)
- (6) 注(1)に同じ。
- (7) 注(1)の「資料編」
- (8)「MGH03027@niftyserve.or.jp」による。
- (9) 王立達 (1958)『現代漢語中從日本語借来的詞彙』(『中国語文』2 期, 北京)
- (10) 注(2)に同じ。p. 184
- (11) 注(2)に同じ。pp. 172-177
- (12)「反对行动」「反对者」などのように、〈名詞〉の用法もあるが、これは〈動詞〉の名詞化したものと考える。以下同様。
- (13) 本稿で引用する例文は、以下の辞書を参考にした。
『現代日漢大辞典』(主編 宋文軍 中国商務印書館, 日本小学館 1997 年 北京)
『新漢日辞典』(主編 尚永清 中国商務印書館, 日本小学館 1998 年 北京)
『広辞苑』第 5 版(岩波書店 1998 年)
- (14)『スーパー大辞林』(三省堂)によれば、「保険」は、「英語 insurance の中国語訳からの借用」とあり、なお検討を要するが、ここでは日本製の漢語として扱うことにする。
- (15) 日本語の「新聞」も、明治時代(1868-1926)では「ニュース」「新しい出来

事」の意味で用いられていた。

（ロ メイシン・中国・吉林大学文学院副教授
2001 年度関西学院大学文学部客員研究員）